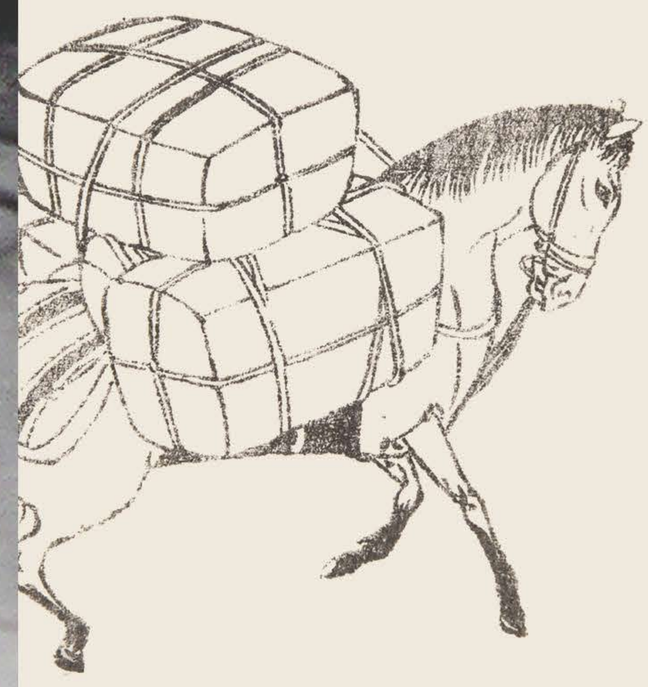
企画展

# 馬で運ぶ

2026. 10.20 (火) – 12.20 (日)

10:00-17:00

※入館は**16:30**まで



物流博物館
MUSEUM OF LOGISTICS

〒108-0074 東京都港区高輪4-7-15　品川駅・都営浅草線高輪台駅 徒歩7分
休館日◆毎週月曜日 (11月23日は開館)／10月27日／11月４日・24日／12月21日～1月8日
入館料◆大人（高校生以上）200円／65歳以上100円／中学生以下無料 (常設展示もご覧になれます)

左：久土進氏と愛馬（昭和40年頃、久土明彦氏提供）
右：『東海道名所図会』寛政9年（1797）刊より

# 馬で運ぶ

令和８年（2026）は午年です。

馬と聞いてわたしたちが思い浮かべるのは、競走馬や観光牧場での触れ合いなど、日常とは離れた場所にいる姿がほとんどではないでしょうか。しかし、日本では古くから馬や牛を輸送の現場で利用しており、今から60～70年程前まで、働く馬たちの姿はわたしたちの生活の中にありました。

物流博物館は、NXグループ(旧・日本通運グループ)の企業博物館として、日本通運株式会社が昭和30年代初めに収集した交通・運輸に関する歴史的な資料を収蔵しています。日本通運は一時期、国内最大規模の組織的な馬匹所有者であったと考えられます。

本展では当館の収蔵資料を中心に、「馬で運ぶ」にまつわる歴史の一端をご紹介します。

原木を運ぶ　岩手県花巻市　昭和 32 年（1957）

## 映画上映会　事前予約制・先着順に受付いたします。

上映作品

「里馬の森から－森を活かす古くて新しい技術・馬搬」

2016年公開/エグゼクティブプロデューサー:小泉修吉/プロデューサー・監督:尾立愛子/製作:グリーンイメージ国際環境映像祭実行委員会, NPO法人くりこま高原・地球の暮らしと自然教育研究所

**日時**　11月22日(日)／12月５日(土)

いずれも10:30～12:00／14:00～15:30

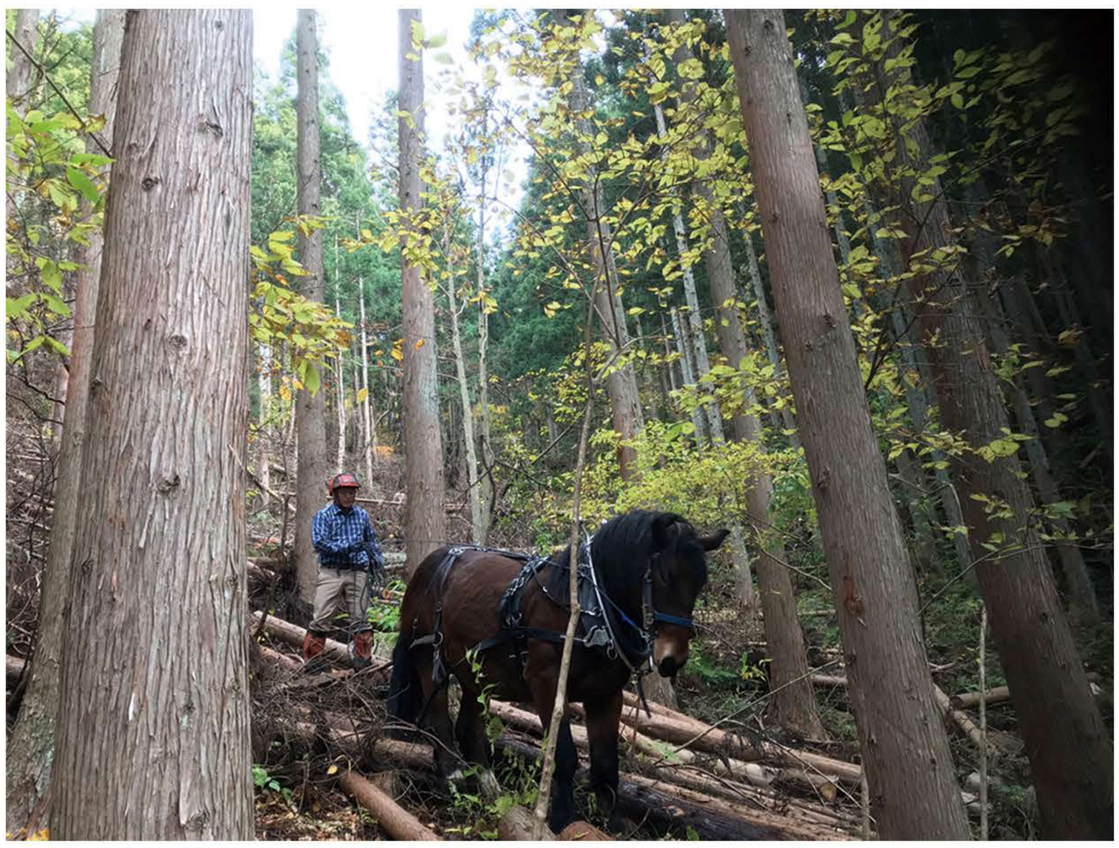
**定員**　各回30名

**共催**　一般社団法人馬搬振興会

**作品概要**

現在、日本では人と馬がともに暮らす姿は見ることはできなくなった。山から木を馬と共に搬出する「馬搬」を生業とする馬方は、馬搬が盛んだった東北地方でも岩手県の 74 歳の職人とその弟子 38 歳の２人だけになり、全国でも数名を残すのみである。50 年ほど前までは、人と馬が共に１つ屋根の下で暮らし生きていた。今、機械に頼らない、山や自然を壊さない生き方が注目されている中、わずかに残る昔ながらの馬との暮らしや文化を1年に渡り記録した作品。

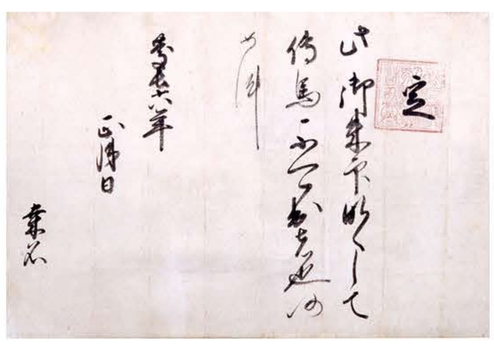
**申込方法**　【10月30日(金)電話受付開始】※お名前・電話番号を伺います。
電話＜03-3280-1616＞にてお申し込みください。※空席時は当日参加可



馬搬（ばはん）岩手県遠野市　令和元年（2019）11 月
写真提供：一般社団法人馬搬振興会

乗車式荷馬車模型　　大正末～昭和初期

東京名所鉄道馬車往復上野公園山下之図　歌川広重（三代）画　明治15 年（1882）
〈10/20～11/20展示〉

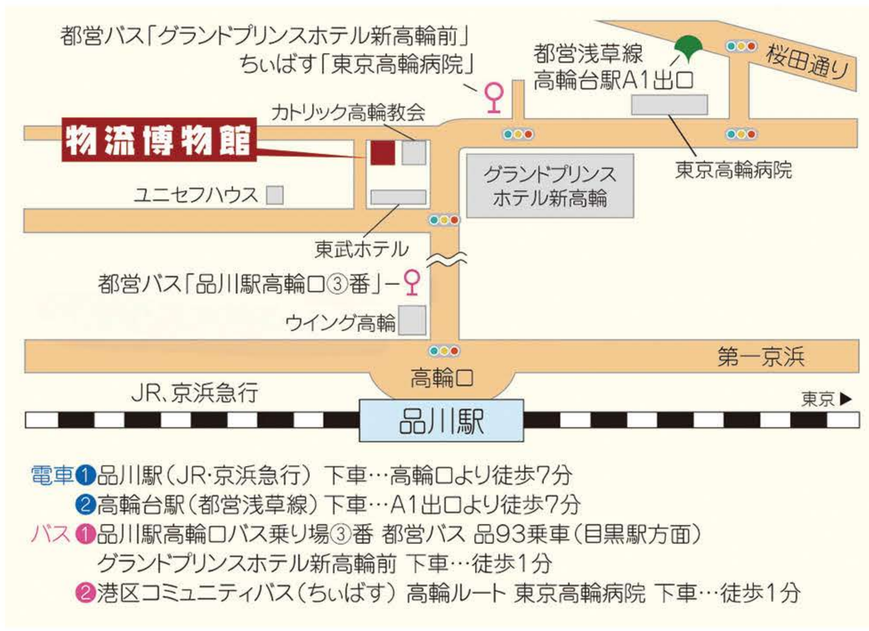


伝馬朱印状　慶長６年（1601）〈10/20～11/20展示〉

京都馬借の馬飾り
江戸時代

### 展示構成

1. 背負う馬たち
   江戸時代の街道輸送／馬背で運ぶ―京都馬借・中馬
2. 曳く馬たち―明治時代以降
   鉄道錦絵にみる馬の姿／長距離の馬車輸送・近距離の馬車輸送
   関東大震災と荷馬車改良／馬力輸送アルバム
   鉄道貨物集配業としての「馬力」運送
3. いまも運ぶ馬たち




電車❶品川駅（JR･京浜急行）下車…高輪口より徒歩7分
❷高輪台駅（都営浅草線）下車…A1出口より徒歩7分
バス❶品川駅高輪口バス乗り場③番 都営バス 品93乗車（目黒駅方面）
グランドプリンスホテル新高輪前 下車…徒歩1分
❷港区コミュニティバス（ちぃばす）高輪ルート 東京高輪病院 下車…徒歩1分

物流博物館
MUSEUM OF LOGISTICS